

# アジアサマースクール In Bangkok 2024

(2024年8月25日～2024年9月7日)

応用生物学研究科・応用生物学専攻 1年 日下聖蘭

生命健康学部・作業療法学科 4年 高木美緒

工学部・宇宙航空理工学科 3年 小口昂大

人文学部・英語英米文化学科 3年 辻莉子

応用生物学部・食品栄養学科 3年 半田皓大

工学部・情報工学科 3年 脇田慎治

理工学部・宇宙航空学科 2年 鳥居陽以呂

理工学部・数理物理サイエンス学科 2年 中川千颯斗

理工学部・数理物理サイエンス学科 2年 中川翠颯

# 目次

1. 一人一人の参加目的とルームメイト	P.1~5
2. プログラム内容	P.5
3. 授業内容（座学）	P.6~8
4. 授業内容（実習）	P.9~11
5. 授業後の過ごし方	P.12~14
6. タイのご飯について	P.15~16
7. 週末の過ごし方（土曜日）	P.17~19
8. 週末の過ごし方（日曜日）	P.19
9. 様々な国の人達との交流	P.20
10. まとめ	P.20

# 1.一人一人の参加目的とルームメイト

## 応用生物学研究科・応用生物学専攻 1年 日下聖蘭

私は今まで GIS について学んだことがなく、そこに興味を持ちました。また、私は英語でのコミュニケーションがとても好きで、学んだ事が無い事を英語で学べる所に魅力を感じました。また、海外の人達とも実際に交流が出来る所にも魅力を感じました。以上の理由より私はこのアジアサマースクールに参加したいと思いました。

名前（ニックネーム）：Ivy

出身国：フィリピン

私のルームメイトは誰にでもフレンドリーでジョークを言うとても面白い人です。初日から一緒にバスケットボール、一緒にサイクリング等もしました。この子はとてもプレゼンが上手く、その子のプレゼンにのめり込んでしまいました。彼女は私の最高のルームメイトです。

## 生命健康学部・作業療法学科 4年 高木美緒

私は SDGs や国際問題に興味があり、それらと結びついている GIS を学びたいと考え、このプログラムに参加しました。また、寮生活や国際交流など日常では経験できない環境での生活に触れてみたいと思いました。さらに海外の学生や日本人学生との交流を通して、様々な価値観や考えを持つ人々との関わりが自分自身の成長に繋がると考え、参加をしました。

名前（ニックネーム）：Mary

出身国：フィリピン

とてもフレンドリーで明るく、家族をととても大切にしている子でした。ホスピタリティ精神が高く、困っていると助けてくれたり、英語の理解が難しいと簡単な単語を選んだり、話すスピードを調整しながら会話をしてくれるとても優しい子でした。

## 工学部・宇宙航空理工学科 3年 小口昂大

学校の実験で QGIS を用いたリモートセンシングについて扱いました。さらに理解を深めたいと思いました。また、日本語を話すことができない人と話すことで自分自身の英語力を高めたいと考えました。

名前（ニックネーム）：Ryan

出身国：ベトナム

ベトナム出身の男性でした。大変明るく元気で無邪気な人でした。一緒にいてとても楽しかったです。授業を受けているときも席が近かったので、最もたくさん会話をした1人です。私が困った時に様々な場面で助けてくれました。特に寮で自室のカギの綴じ込みをしてしまった時に助けてくれたことは良い思い出です。今でも頻繁に LINE で連絡を取り合う仲になりました。

## 人文学部・英語英米文化学科 3年 辻莉子

私は 2023 年に参加したオーストラリアへの派遣留学で受講した人文地理学と環境学に興味を持ったため、それらと関係のある GIS を学びたいと考え、応募しました。また、AI が活発になっている社会の中で、コンピュータの知識を深め将来の仕事などで活かしたいと考えました。さらには、初めてのアジアで様々な国から参加している学生たちとの国際交流も行いたいと考えました。寮生活を通じた国際交流の中で、同時に英語力も高めていきたいと考えました。

名前（ニックネーム）：Patty

出身国：ラオス

私のルームメイトはラオス出身の大学一年生の女の子でした。大学では環境科学を専攻しており、環境問題に興味があると言っていました。大人しい性格の子で、私とよく気が合い良いその子がルームメイトでとても安心しました。彼女は幼稚園の頃から両親から勧められて英語を学んでいたようで、ネイティブレベルの英語力で話しやすかったです。彼女とは様々な会話をすることができました。例えば、ラオスでは大学は一つしかないことや、タイ人はラオス語を理解できないけどラオス人はタイ語も理解することができることなどです。タイとラオスは国が隣であるため、言語だけではなく食文化もかなり似ているそうです。他にも会話が止まることなく話せて、特に大きな話はしていませんが、普段の何気ない小さな会話がとても楽しかったです。彼女とは今回の留学でできた一番の親友になりました。今でもメールでやり取りをしており、素晴らしい友達を作ることができてとても嬉しいです。

### 応用生物学部・食品栄養学科 3年 半田皓大

授業で GIS の技術が農業分野で活用されていることを知り、GIS についてもっと知りたいと興味を持ったため参加しました。また、英語の授業や日常生活での英語を用いることを通して、自分の英語力を向上させ、異文化交流を深めたいと思いました。

名前（ニックネーム）：Sang

出身国：ベトナム

ベトナム出身の男性で、静かで冷静な人でした。みんなに優しく、気づいたことがあったらすぐに助けてくれました。ご飯や実習でも一緒に行動することが多く、サマースクールの中でたくさん話した一人です。ベトナムのことについてたくさん話してくれることが多く、私が知らないことをわかりやすく教えてくれました。スポーツの話では盛り上がることもあり、とても楽しかったです。安心感を与えてくれることもあって、とても楽しく落ち着いて過ごすことができるルームメイトでした。

### 工学部・情報工学科 3年 脇田慎治

私は様々な環境に身を置きチャレンジすることが好きで、このプログラムに参加しました。また、本プログラムで学ぶ GIS、RS に関しても自分の研究予定の分野と重なる分が多く興味を持ったことや、海外経験がほぼ無く留学にも興味があったので、初めてポスターを見た時ほぼ即決で応募しました。

名前（ニックネーム）：Josh

出身国：フィリピン

僕のルームメイトはフィリピン出身の気さくな男の子でした。とてもフレンドリーで初日からメンバーを集ってバスケットボールをしたり、常に会話の中心にいました。フィリピンは英語が公用語な事もあり、会話がたどたどしい日本メンバーにも丁寧に英語を教えてくださいました。

## 理工学部・宇宙航空学科 2年 鳥居陽以呂

父親がカンボジア人であったため、東南アジアに対する関心が高かったです。また、空を飛ぶものが好きだったため人工衛星やドローンを用いる GIS に興味が湧きました。

名前（ニックネーム）：Nammunue

出身国：タイ

とてもやさしい子でした。風呂の時間やランチメニューなど基本的にこちらの都合に合わせてくれるうえ、親身に相談にのってもらいました。

## 理工学部・数理物理サイエンス学科 2年 中川千颯

私はエリアマーケティングについて興味があり、この留学でそれを含め様々な観点から国際問題について学べることから今回のサマースクールに応募しました。また、それだけでなく普段経験できない新しい環境で他国の学生と交流を深めることができると知り、将来活かすことの出来る新しい発見や知識を得られるのではないかと考え、参加を決めました。

名前（ニックネーム）：Soup

出身国：タイ

私のルームメイトはタイ出身の4年生の女の子でした。初日のまだ会話もままならない時から積極的に話しかけてくれ、ものの使い方やルールなどをとても簡単な英語のみを使って教えてくれました。また、ショッピングやレストランでは私たちが不自由なく楽しむことができるように店員さんとコミュニケーションをとってくれるだけでなくおすすめのお食べ物やタイの文化などを紹介してくれました。他にも大学内でも楽しめるよう、お菓子パーティーやレクリエーションなどに積極的に誘ってくれたおかげで他国の学生とも話しやすい雰囲気を作ってくれました。彼女がいたからこそ分かったことや楽しめたことも多かったです。最終日には一人一人に手紙とイラストを書いてもらい、一生の思い出になりました。2週間という短い期間ではあったものとても仲良くなることができ、留学が終わった今でも定期的に連絡をとるくらい仲良くなる事が出来てとても嬉しいです。

## 理工学部・数理物理サイエンス学科 2年 中川翠颯

私の学科では数学を中心に学ぶため今の社会に繋げて勉強する機会が少ないです。このアジアサマースクールを通して新しい視点から学び社会に繋げていきたいと考え参加しました。また大学に入学してから一段と英語を勉強する機会が減り危機感を感じており、英語を使う環境の中に入ることでもどれほど大事なのかを再確認しスキルを高めていきたいと考えました。

名前（ニックネーム）：Mine

出身国：タイ

私のルームメイトはタイ出身の4年生の子でした。彼女は周りを見て困っている人がいるとすぐに助けに動いてくれます。日本とは違うことが多く初日は部屋の鍵の締め方から分かりませんでした。そんな私にあきれることなく優しく1から丁寧に教えてくれました。また日本人がお腹を壊さないよう配慮しておすすめの食べ物を教えてくれたり大型ショッピングモールでは迷子にならないよう、私たちが行きたい場所に着いてきてくれました。彼女がいたからこそ安全で最高の生活が送れたと思います。他にも普段の会話でなるべく簡単な英語を使ったり例を出して理解しやすくしてくれることに加え授業での内容を簡単に説明し直してくれることもありました。英語を話すことも聞き取ることも苦手でしたがそれでも頑張ろう、もっと沢山話したい！と思うことが出来ました。最終日にはタイのお菓子と一緒にお手紙を貰い忘れられない最高の思い出を作ることが出来ました。今でも時々連絡をとっているくらい仲良しです。

## 2.プログラム内容

プログラム内容としては、二週間アジア工科大学に行き、GISやSDGsについて学び、様々な国の人達と交流をすることが目的である。また、タイの文化や歴史、国民色に触れ、タイのことについての知識も深める。

### 3.授業内容（座学）

AIT での授業は月曜から金曜まで課外活動を除き毎日朝 9 時から 17 時ごろまでであった。授業は講義形式が多く毎回の授業ごとに先生が変わった。授業一コマは大体 2 時間ほどであった。内容としては IT に関する授業が大半で、その他にも環境問題やビジネス、テクノロジー、健康被害などのトピックが扱われた。ほとんどの授業が GIS と結びつけて行われ、GIS が幅広い分野に適用可能であることが授業を受けるたびに感じる事ができた。

まず初回の授業では中部大学の福井教授の可視化がテーマの講義があった。GIS を使用して可能となる、見えない部分の可視化技術を使用して、雪崩の予測が可能となるという内容のものだった。実際に雪崩を予測しているアプリケーションを見ることができ、GIS の可能性をいきなり実感することができた。他にも福井教授は自然災害の予測や、コロナ時の世界の患者数、夜中の灯りから各地域の経済状況、交通渋滞から大気汚染などをデジタルアースの技術を駆使すると可視化してデータとして蓄積することができると話されていた。

また渡部教授は考古学者としての研究内容や GIS を使用して各遺跡の 3D モデルを作成することで立ち入り不可の現場でも離れたところから研究が可能となることを講義されていた。また、GIS は人間の健康被害を防ぐことができることも授業を通して学ぶことができた。

Nitin 教授はマラリアやデング熱が多く発生している地域を GIS を使用して可視化しその地域を訪れる人々に注意を促すことが可能であると話されていた。GIS の地図には様々な種類があり危険度を異なる色で表す Risk map、データをリングの形で示す Ring map、ウイルスを介する生物の生息区域を示す Habitat map などがあるそうだ。それらを用途によって使い分けることで、より見やすい地図を作ることができる。このように GIS は医者では救うことのできない数の人々を救うことが可能であると Nitin 教授は授業を締めくくっていた。他の授業では実際に GIS を使用する時間もあった。それぞれルームメイトとペアを組んで一緒に協力し合いながら一つの地図を完成させることができた。GIS は簡単に言うと自分が地図として可視化させたい情報のデータを元に、表示させたい条件などを指定して地図を作るシステムのことである。授業ではタイのどこで地震発生率が高いのかを示す地図を作った。GIS のアプリは様々な指定情報を選択する欄が多く、どこを選択して指定していくのかが初めて GIS を使う私にとってとても難しいと感じた。しかし、情報系の学科を専攻している他国の友達が方法を教えてくれて授業についていくことができた。

GIS 関連の授業以外にも、様々な分野の授業が幅広く開講された。例えば、コンピュータが行う機械学習を深く学んだ。どのようにしてコンピュータが細かい計算や人間との会話など



を行うことができるのかというコンピュータの内部を学んだ。機械学習とは人間がコンピュータに多くのデータを与え、それらのデータを用いてコンピュータに一つ一つすべき動作をトレーニングし、テストを行うというのが一連のおおまかな流れになる。この機械学習は文系の学生にとっては理解するのが難しい内容であるため、先生がワークショップを考案してくれ、機械学習の中身をよく理解することができた。ワークショップの内容としては、3人ほどのグループに分かれ自分たちがコンピュータとして先生から与えられたデータを指示通りに分類したりするものであった。地道な細かい作業でしたが、他国の学生と一緒に取り組むことによってこのようにしてコンピュータは情報を解読してユーザに発信しているのだと実体験をもって理解することができた。

また、経営を学ぶビジネスの授業もあった。この授業では企業は常に革命的なアイデアを出すことが必要であることを学んだ。授業で習ったクラウドソーシングという経営の方法を応用してグループに分かれて会社を考案してビジネスを立案した。私のグループではバイクの乗り合い会社を考案した。タイでは交通渋滞やそれに伴った大気汚染が問題となっているため、バイクの会社に決めた。日本ではカーシェアリングが始まっているが、安全面を理由にまだ利用者が少ないという点を考えて、大学生を限定にした会社にした。会社設立を考えるにあたり、必要なチームや具体的な使用方法、使用すると考えられる利用者、費用なども話し合っただけで、最後は各班ずつプレゼンテーションで発表した。この授業を通して、ビジネスの基本的な方法や必要な思考力、ディスカッション力、プレゼン力などの多くのスキルを身に付けることができた。

さらには、サイバーセキュリティについての授業もあった。この授業では年々増えてきている防止が難しくなっているサイバー攻撃の種類と、それらからの身の守り方などを学ぶ。授業中に実際に先生が Wi-Fi から仕掛けることができるトラップを作り、数人の生徒が引っかかってしまうということも起きた。実際に攻撃を見ることができて、しっかりと虚偽のものではないか確認する必要があると痛感したとともに、見分け方も学ぶことができ、今後の実生活にも役立てていきたいと思った。

また、AI を使用する利用者としての心得も学んだ。先生は誤った方法で AI を利用することを防ぐために責任ある利用者になってほしいと話していた。なぜなら AI は人間を差別し得るプライバシー侵害を起こすこともあり、安全面を壊してしまうこともあるからである。先生は例として、とある国で殺人事件が起きた際に AI で犯人を特定させようとするとう黒人男性が候補にあがり、警察は AI を向こう見ずに信用し無実の男性を逮捕してしまったということがあったそうだ。このような誤った結果を防ぐために近年ではいくつかの防止方法

ができていそうだ。例えば Guardrails with uncertainty awareness という方法ではもしコンピュータが答えに確信を持てなければ、曖昧に答えさせるという方法である。この方法によって確実な情報だけをコンピュータは答えるようになるためミスを防ぐことができる。この授業を通して AI は人間が想像できる以上の影響力を及ぼすことがあり、悪影響を防ぐためにきちんとした対応策が必要であると学ぶことができた。AI と正しい方法で共存していくことがより良い社会の実現になると感じた。

また、大気汚染の授業も受けることができた。この授業では大気汚染の原因物質や人体への影響、コロナ禍の大気汚染の改善、防止策などを学んだ。先生はガイドラインを作ったり、大気汚染の状況を視覚的に見るためデータを公開したり、空気の質のチェックを行うことが大切であると話していた。大気汚染が深刻なタイであるからこそ、タイと世界が抱える深刻な大気汚染を学ぶことができて、今私たちがきちんと現状を理解することが大切であると感じた。

AIT での授業は実に幅広いトピックを扱っていたことで、将来 AI 化が進む社会で役立つ知識を数多く得ることができた。GIS を一つの軸に、環境問題や情報科学、健康被害、ビジネス、AI などの分野を広く学べたことで私含め、参加者全員が一つ最も興味を持った分野を見つけることができた。また、授業を通して私が個人的に感じたこととしては、やはり日本の IT 活用化と利用率は学生の間ではあるが、まだ他国に比べて遅れていると感じた。フィリピンやタイから参加している子は特に IT 分野に強い関心を持っており、授業中もかなり専門的な質問を先生に投げかけていた。反対に日本人は言語の壁も大きな原因とはなっているが、率先してグループワークをリードすることや GIS を使いこなす学生はおらず、レベルの違いを痛感した。タイよりも日本の方が先進していて、IT も同時に進んでいるイメージでいたが、実際は若者の間では日本は抜かされているのではないかと感じた。IT 人材の不足と言われている日本はその分野の教育体制をもっと抜本化する必要が世界に追いつくために必要であると強く実感した。小学校でもパソコンで授業を行うデジタル化が増えてきている日本であるため、数十年後はもしかしたらこのようなプログラムで日本人が他国を圧巻してリードしていく状態になっているかもしれない。しかし、今現在としてはまだまだデジタル面での成長が国として必要であることを強く感じたため、私自身も AI の知識を高めていきたいと思った。授業を通して AI は社会を便利にするだけでなく、人々の命を救う力があると学んだため、より強く AI に対する可能性を感じた。私は GIS の知識は一切なく使い方もどのように利用されているのかも知らなかったが、非常に多くの分野に利用できると知ったため、先生から教えてもらった勉強サイトで勉強していきたいと思う。

(辻 莉子)

## 4.授業内容（実習）

### クボタファーム



クボタファームでは教育と体験型の近代農場になっており、水稲栽培の効率化やICTを活用した施設栽培を行っている。私たちはバスに乗ってクボタファームの中を一周した。クボタファームでは米やサトウキビ、キャサバ、トウモロコシなど様々な作物を育てているが、単に育てるだけではない。低コストかつ短時間で作業が行えるよう研究も行っている。例として、半自動野菜植え付け機やドローンがあり、労力削減・利便性と操作性を向上に役立てている。実際にスマート農場憤慨システムでは、スマートフォン、タブレットなどのデジタル通信デバイスを使い効果的な水管理とメンテナンスが容易化したことで水の消費量を10～15%、手作業を2～3時間の削減に成功した。使う機械によっても差があるが、最大80%の時間短縮になった機械もあるそうだ。農場と聞き農作物の栽培だけをイメージしていたが、池と魚の養殖、鶏の飼育まで行っていることを知りとても驚いた。体験型農場でもあるクボタファームではタイ語が分からなくても実際に野菜を植えつけているところを目の前で見せてもらったり実際にドローンを飛ばしたりすることで言語の壁を越えて学ぶことが出来たと思う。

（中川翠颯）

### GISTDA（見学）

人工衛星の各種運用を行っている半官半民の施設を見学した。見学エリアの約半分は撮影禁止となっていた。施設の職員が各展示エリアを説明した。1階には人工衛星に関する小規模な展示があった。人工衛星が宇宙空間における放射線などの過酷な環境に耐えることができるように確認試験などを行うエリアがあった。このエリアを2階の窓から見学できるようになっていたが撮影禁止だった。また、小規模ながら職員が勤務しているオフィスも見ることができた。

宇宙環境は地上と大きく異なる。人工衛星が周回する高度1000kmでは大気圧が $10^{-8}$ Pa（地上の大気圧は $10^5$ Pa）の高真空状態である。このような過酷な環境下でも人工衛星が正常に運用できるように様々な対策が行われている。個人的に興味深い装置があったので以下にこれを記す。

最も興味深いと感じたものは高真空の宇宙環境を模擬するための「スペースチャンバー」

(大きな筒状の入れ物)である。この装置に打ち上げ予定の人工衛星を入れて試験を行う。また、高真空だけでなく、厳しい温度変化も同時に模擬できる。このスペースチャンバーは見学エリアから見て左側の壁に埋め込まれるような形で運用されていた。日本でも大型のスペースチャンバーは JAXA など多くの研究機関で使われている。タイ王国でこの装置を見ることができるとは思ってもいなかったので印象的だった。タイ王国では人工衛星の打ち上げはインドのロケットで行われているとのことだった。これは打ち上げ費用が安い国のロケットを選定しているという説明があった。



## Space inspirium (見学)

こちらは GISTDA の敷地内に併設された人工衛星などの宇宙に関する展示を行っている科学館である。当日は校外学習で多くのタイ人学生(保育園児や中学生など)が訪れていた。知名度の高い施設だと思われる。展示内容は日本の科学館でもよく見かける展示物が多い印象を受けた。2点、特記すべき展示があったので詳報する。1つはタイで製造された初代人工衛星の実物大模型である。非常に大きかった。人工衛星は UAV と同様に技術革新が進むにつれて軽量化、小型化がなされている。タイ王国での人工衛星の技術革新を深く知ることができる展示であった。もう一つは日本政府の内閣府が出展している展示エリアがあった。日本の人工衛星と日本で製造され ISS で採用されている宇宙食の展示があった。タイ王国では日本の気象衛星「ひまわり」の知名度が驚くほど高かった。GIS を専攻しているタイ人学生にこの件について尋ねたところ、「ひまわり」を知らない人はほとんどいないとのことだった。日本国外で行われている内閣府の展示は我が国の宇宙産業のプレゼンスを高める手段として非常に有用であると感じた。我が国の宇宙技術がアジアをはじめとする世界各地の諸問題解決の一助となることを願って止まない。(小口昂大)



## UAV（操縦体験）

無人航空機（以下ドローン）の操縦体験を行った。今回の操縦体験で使用したドローンは日本でもよく見かけるタイプの機体であった。操縦体験はシミュレータと実機の両方を体験した。操縦体験を行う前にタイ王国におけるドローンの各種規則及びドローンの特性についての説明があった。操縦体験の事前説明で印象的だったことを記す。

- ・人間は2つの目によって、立体感や遠近感などを把握している。ドローンに搭載されているカメラは1台のみである。カメラは1台のみだが、微小距離を移動してもう一枚撮影することで人間の2つの目と同様の状態にしている。

- ・ミャンマーで遺跡のドローン撮影を行う場合、事前にミャンマー軍の許可が必要になる。また、遺跡上空でドローンを飛ばす場合、事前に安全祈願のような神に対して祈る行為を行わないと撮影できない場合がある。

- ・タイ王国ではドローンを所有すると電話番号などを登録する必要がある。禁止エリアを飛行すると当局によって物理的に墜とされる場合がある。

事前にドローンへのバッテリーとブレードの装着体験を行った。バッテリー及びブレードの脱着は容易に行うことができた。 (小口昂大)





## 5.授業後の過ごし方

授業が終わってからは、それぞれがいろんなことをして過ごした。授業を行った部屋の隣にはリビングのようなお部屋があり、そこでゲームをして遊んだり、アシスタントの人達が用意してくれた食べ物や飲み物、お菓子を食べたり、皆で話したり、近くにあるマーケットに行ったりなどいろんなことをして過ごした。ゲームでは、任天堂スイッチが部屋にあったので、マリオカートやルイジーマンションのゲームをサマースクールに参加している全員でやって楽しんだ。また、フィリピンの学生が持ってきたゲームをして盛り上がったり、スマホのゲームを10人くらいでやって楽しんだりした。リビングの隣にも狭いお部屋があり、そこではお菓子を食べたり、飲み物を飲んだりしながら雑談話をして過ごしていた。授業をしてくれた先生やアシスタントの人も混ざってそれぞれの国の文化や食べ物、言葉に違いなど様々な話題の話をして過ごしていた。さらに、AITの建物は広いので、AITの建物の中を探検して過ごすこともあった。



授業後、夕食を食べるためにすぐ移動することもあった。その時は夕食を食べた後、近くのショッピングモールや屋台などに行って買い物をして過ごした。ショッピングモールは迷子になりそうなくらいとても広い建物であったので、集団でまとまって行動した。タイの学生と一緒に買い物をしたときは、タイの美味しい食べ物やお土産として人気な

もの、おすすめの商品をたくさん教えてもらった。辛いお菓子がある時はどのくらい辛いのか、食べ物の臭いが良いものとあまりよくないものはどれなのかについても詳細に教えてもらった。屋台ではいろんな食べ物や商品が売られていた。そこにはタイの食べ物だけでなく、フィリピンでよく食べる食べ物やベトナムの料理など他国の食べ物もあった。とても甘いお菓子や味付けされた虫、とても辛い料理などタイ独特の食べ物を買ってみんなで一緒に食べ歩きしながら楽しんだ。ショッピングモールと屋台両方で学生同士がいろんな話をし、食べ物はたくさん食べていい思い出になった。



(ショッピングモールの様子)



(屋台の様子)

夕食を食べ終わって学生の寮に戻ってからは、寮の近くにあるバスケットコートやバレーボールコート、テニスコートなどでスポーツをして過ごした。サマースクールに参加している学生だけでなく、AIT に在学している学生とも一緒に遊んだ。バスケットボールではみんな真剣な様子でありながら、楽しくボールを追いかけてパスを出し、シュートをきめていた。バレーボールはみんなで円になってボールをパスし続けたり、試合をして楽しんだりした。



(スポーツをしたときの記念写真)

AIT 内ではレンタル自転車やスクーターがあったため、レンタルして AIT に近いマーケットに行った。そこでは、ゲームをしたり、アイスクリームを食べたりして過ごした。レンタルの自転車やスクーターに乗って AIT 内を探検した。とても広いため、いろいろな場所に行って AIT 内を満喫して楽しんだ。

(半田皓大)



(レンタル自転車で出かける様子)



(ゲームを楽しむ様子)



## 6.タイのご飯について

タイの主食は日本と同じでお米だった。日本のお米は甘みがありもちりとしていますが、タイのお米はパサパサとした食感で、甘みやねばり気が少なかった。タイ料理は肉・魚介類、野菜・フルーツなど様々な食材に加えて、パクチーやココナッツミルクなどの調味料が使われており、日本食にはない味わいだった。また、タイ料理の味付けは全て辛いわけではありませんが、韓国料理と似たように辛い料理が多くあった。一方で、タイの代表的な料理のパッタイ、カオパット、クイッティアオなどはほとんど辛くなかった。そういった料理にはテーブルに備え付けた唐辛子があり、自分で辛さを調整できるようになっていた。飲み物ではタイのお茶はとても甘かった。日本のお茶はタイ人にとってはジュースやコーヒーと同じであり、日本人がコーヒーや紅茶に砂糖を入れるのと同じようにタイではお茶に砂糖を入れるようだ。

食事の際は、右手でスプーン、左手でフォークを持ち、スプーンの上にフォークで食べ物を乗せて食べる。大きな肉や魚などはスプーンのへりをナイフ代わりにして小さく切ってから口に運ぶ。タイは主にお箸を使っておらず、麺や焼肉を食べる時にお箸を使う。場所によっては箸が置いてあったり、声をかけるともらうことができる。始めはスプーンとフォークの両手での使い方に戸惑ったが、後半になるにつれて少しずつうまく使えるようになった。また、タイでは自分の皿の上にフォークとスプーンを「数字の11」になるように揃えて置くと「食べ終わった」という意味になるようだ。自分では食べている途中でもフォークとスプーンを「数字の11」の形に置いてしまうと、料理が片付けられてしまうことがあった。日本と異なるタイならではの食事マナーもあり、現地の学生に教えてもらいながら食事をとった。

### 〈朝昼夜の食事について〉

朝食では大学内にあるカフェテリアで食事をした。時間が決まっており、その時間の中で各自のタイミングで食事をするスタイルだった(写真1,2,3)。朝食時間をゆっくりと過ごす子、ぎりぎりまで寝ている子、朝に活動を終えてから食事にくる子など朝食の過ごし方は人それぞれだった。昼食や夕食はお弁当や大学内、バスで移動した先にある飲食店やレストランで食べた(写真4)。朝食やお弁当では一人一つ用意されているが、基本的にはテーブル内の大皿から自分の好みの料理、量をよそうスタイルが多かった。1

食の食事は日本と比較すると全体的に量が少なく、物足りなさを感じるがあった。しかし、授業間にはコーヒブレイクという休憩時間があった(写真5)。そこでは、ケーキやパン、お菓子、フルーツ、ジュースやコーヒーが置いてあり自由に食べることができた。日々変わるお菓子が沢山あり、つい毎時間食べてしまい常にお腹いっぱいな2週間だった。授業中においても飲食可能であり、日本にはない授業の受け方に新鮮さを感じながらそういった面も楽しんで授業に取り組むことができた。(高木美緒)



(写真1)春雨の炒め物と鶏肉のスープ



(写真2)カオトム (タイのおかゆ)



(写真3)クイッティアオ (タイのラーメン)



(写真4)食事の様子



(写真5) コーヒブレイク

## 7.週末の過ごし方（土曜日）

土曜日は主にチャオサームプラヤー国立博物館、アユタヤ国立公園内、ワットチャイワッタナラームを回り見識を広めた。

### チャオサームプラヤー国立博物館

土曜日は初めにチャオサームプラヤー国立博物館に向かった。チャオサームプラヤー国立博物館はアユタヤ歴史公園の近くにある博物館でアユタヤ王朝時代の遺物や宝物を展示している。展示されているのは主にアユタヤ王朝時代の宝物や日用品、そして当時の仏教美術品だ。展示品のそばにはアユタヤ王朝の歴史の解説が詳細に書かれていたため、当時の祭事や日々の生活について思いをはせることができた。

また、博物館内にはアユタヤ遺跡の全体図が3Dモデルで展示されており、これから向かうアユタヤ遺跡に対しての期待感を高めてくれた。



### アユタヤエレファントキャンプ

次に向かったのは、アユタヤ国立公園内にあるアユタヤエレファントキャンプだ。エレファントキャンプはアユタヤの主要な観光スポット付近にある象乗り場で、象乗り体験のほか象への餌やり体験やふれあい体験も行うことができる。特に象乗り体験では象に乗りながら歴史的な遺跡や風景を楽しむだけでなく、象に乗りながら公道にでて車に手を振るといった日常と非日常が入り混じる経験をする事ができた。

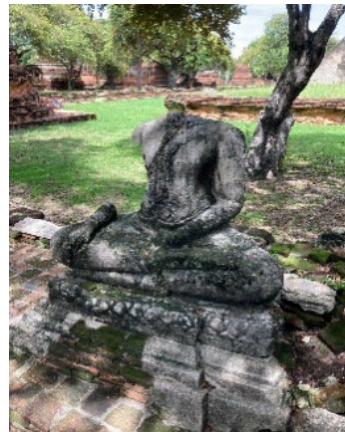




## ウィハーン・プラ・モンコン・ボピット&ワット・プラ・シーサンペット

次に向かったのはアユタヤ国立公園内のウィハーン・プラ・モンコン・ボピットという寺院とそのそばにあるワット・プラ・シーサンペットという遺跡だ。ウィハーン・プラ・モンコン・ボピットはタイ国内で最大級の屋内仏像を備えた寺院で、仏教徒に国内外問わず根強い人気がある。現地の学生アシスタントから参拝の方法やタイ式のおみくじの引き方を学んだ。

ワット・プラ・シーサンペットはアユタヤ王朝の王室寺院であり3つの仏塔やビルマ軍のアユタヤ侵攻の痕跡が強く残っているのが特徴である。立派な仏塔の傍らで破壊された仏像が散見されるといった光景に、アユタヤ王朝の繁栄と衰退を感じることができた。



## タイの民族衣装体験&

### ワットチャイワッタナラーム

最後に向かったのはワットチャイワッタナラームという寺院だ。遺跡の向かいにある店でタイの民族衣装を借りた。民族衣装は日本における着物のような立ち位置のもので、煌びやかな柄の服や金を基調とした装飾品がほとんどだった。その後民族衣装を着たままワットチャイワッタナラームの散策を行った。ワットチャイワッタナラームは、タイのアユタヤにある仏教寺院で、アユタヤ王朝時代に建設された遺跡の一つである。ワット・プラ・シー・サンペットと似通った建築様式ながら、カンボジアのアンコールワットにみられるクメール文明の建築様式も感じ、アユタヤ王朝の発展と他国交流の様を感じた。

(鳥居陽以呂)



## 8.週末の過ごし方（日曜日）

週末（日曜日）はバンコクでフリータイムだった。午前中から夕方はアジア工科大学からみんなでバンコク市内に連れて行ってもらった。そこからは自由行動で、地元のマーケットやショッピングセンターに行った。マーケットでは、様々なタイの料理や服や小物などが売っていた。また、ショッピングセンターに移動する際には電車やアジアならではのトゥクトゥクに乗り移動した。



また、夜からは寮に帰る人とまだ遊びたい人に別れて行動した。私はまだ遊びたかったため、日本人とベトナム人の2人の4人でローカルなナイトマーケットに行きました。そこでは、自分で具材を選ぶラーメンや、串焼きを食べた。マーケットには食用の虫なども売っていたため、挑戦してみた。味は意外と美味しくて、興味があるのであれば1度試してみると良いと思った。また、ナイトマーケットには観覧車やマッサージ屋さんもあり、旅の疲れを癒してもらった。楽しすぎた為終電を逃してしまい、タクシーで帰った。多少のアクシデントも海外でしか体験できないため、とても楽しくて良い経験になった。

（日下聖蘭）

## 9.様々な国の人達との交流

タイの学生たちも今回のアジアサマースクールに参加していた。そのためタイに関する文化や知識などをタイ出身の学生から学ぶことができた。例えばタイは日本とマナーが



異なり、中でも食事のマナーは全く違った。

そこでタイの学生たちが簡単な英語やジェスチャーを使いタイならではのマナーについて教えてくれた。

また、観光で歴史的建造物を見た際にはタイ語で書かれているものを訳し簡潔に伝えてくれた

り、他国の学生が疑問に思ったことをガイドの方に代わりに聞いてくれたりなど英語だけでは不十分な点もたくさん知ることが出来た。

他にも自由行動のときではそれぞれのグループにタイの学生がついてお金の払い方や相場、アレルギーといった必要最低限の確認事項以外にオススメの食品や伝統的なものまで詳しく説明してもらった。学生のみで行動する場合も大きな問題なく過ごすことができたのはタイの学生の手助けがあってこそだと思う。

このような授業のカリキュラムに含まれている時間だけでなく夕食後の空き時間や寝る前の空き時間などでは複数人でボードゲームやオンラインゲームを使いより親睦を深められるよう、様々な工夫をしてくれた。また、日本のお菓子やタイのお菓子を持ち寄り、他国の文化についてお互い話し合った。

(中川千颯)

## 10.まとめ

今回のタイでの二週間プログラムに参加をし、GIS や SDG s、タイの食事や文化、他国の文化とコミュニケーションの取り方などを学んだ。今回の研修においては、実際に現地に来て経験をしなければ分からなかったことも知ることができた。参加者全員が今回の研修を通してさらに成長できたと思う。これに満足することなく、更なる成長を求めて様々なことにチャレンジしていきたいと思う。